

## 令和6年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和6年5月12日（日）10時～12時
- 開催場所 湖北台近隣センター
- 参加者 市民28名
- 出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等21名
- 懇談要旨

市民：まず一つは7月の末を持って、紙の健康保険証がなくなり、12月にはマイナンバーカードの使用になるとのことですが、現在どのぐらいの方がマイナンバーカードを取得されて、保険証として利用しているのか、利用率がわかれば教えていただきたいと思えます。二つ目は、健康づくり支援カードですが、高齢者にいろいろとがんの検診、それから総合検診の申請書、申込書を送ってくるのですが、その利用率を教えていただきたい。三つ目は、説明のあった湖北台図書館分館ですが、今の状況はいつ頃まで続く予定なのか。将来的にあのままで終わるのか。教えていただきたいと思えます。

市長：今日は健康福祉部が来ておりませんので、はっきりした数字はわかりません。後ほど、連絡先等を教えてください。後日、お答えいたします。マイナンバーカードの取得率は8割を超えているのですが、その中の何割の方が保険証として利用されているかは、把握しておりません。私が、理解しているのは、この切り替えについても当分の間は、マイナンバーカードと保険証の併用が可能ということです。病院自体がマイナンバーカードを読み取る装置が100%設置できていません。私が聞いたところによりますと、市内では、9割弱です。マイナンバーカードだけでは確認ができない病院がまだ在るという状況です。ですから、併用が必要かと思えます。それと、国民健康保険証は期限があります。今年のうち、7月に新しい保険証が郵送されます。来年の更新からは、手続きをとらないと今までどおりに書類が手元に届くことはないということです。来年からは、特に国民健康保険は手続きが必要になると理解をしてください。保健センターでは、様々な検診がありますが、先ほど申しましたとおり、利用率は把握出来ておりませんの

で、後日、回答させていただきます。

三つ目の湖北台図書館についてですが、7、8年ほど前になります。湖北台の保育園、消防署、それと市民センターが入っております地区社協とそして図書館、これらはそれぞれ老朽化が激しいものですから、合わせてセットで移転をするというお話をしたのを覚えていただければありがたいのですが、図書館だけは東に移動すると西側の方が、西に移動すれば東側の方が困るということで、結局、今の場所から動かさないという結論に至りました。

その時の話でも、先ほど説明しましたように、第1期工事としては、図書館を除いて話を進めていくということで、第1期工事については順調で8年度に全て終わる見通しがついてきています。その後、今、消防署が建っている敷地が空きますから、その敷地をどう活用するかという話をこれから2年間、様々な意見交換をさせていただこうと思っています。また、これについては、皆様から、了解の上であると私は理解しています。結局、図書館については、今の場所を移動しない、ただ老朽化が激しいということを前提に残したわけです。西小学校の敷地内に移動できないかという検討も教育委員会とさせていただきましたが、図書は結構重いものですから、本の荷重に耐えられる建物はなかなかなく、教室を使うとすると、区切りが小さすぎて、使えるかどうか。地域交流教室等がありますが、そこを使ってしまうと、地域交流教室が使いなくなるという最大の欠点も出てきます。それぞれの事前検討を踏まえた上で、西小学校の敷地というのも検討の一つだというふうに思っています。今の消防署の敷地、あるいは西小学校の敷地、当然西小学校の敷地を選択するということは、学校をどうするかということにも関わって来ます。小学校の敷地を検討する場合には、今の図書館のちょうど道路の反対側になりますが、学校のあり方というのも併せて検討せざるを得ない、ということ踏まえた上での意見交換をさせていただければと思っております。どちらにしても、今の消防署がある建物は、当時、今のURである公団が建てて、寄付をいただいたものです。それを踏まえれば、50年を超えているという状況ですので、これから先、50年、60年使う建物をどういうふうに決定し建設していくか、それは今の通り消防署の跡地という考えもあり得ますが、西小学校の敷地というのも考えられます。ただ、ご存知のように西小学校と東小学校6学年のうちの約半分が一クラス、残り半分が二クラスですので、以前に

比べると、子供たちの数が非常に減っている現状ですので、先ほどお話しした学校のあり方と合わせて検討が必要だろうと思います。その点については、これから第2期工事に向けて、湖北台西小学校の敷地を含めた意見交換をさせていただき、検討したいと思います。

市 民：湖北台の行政サービスセンター等がなくなると、空き地になります。その後は何が出来るのか非常に気になっていまして、今の市長さんの話でわかりました。

だいぶ理解しましたけれども、あの場所は非常に暗いです。今は、消防署があるので、夜は明るい電気がついています。そこに建物を建てたりしたとき、明かりがつくように、夜も通れるようにしてほしいと思っています。

市 長：今、説明しましたとおり、消防署の跡地については、これから何を建てていくか、いろんな形で検討させていただければと思っています。例えば民間施設ということもあるかもしれません。何をつくるかについては、これから皆さんと意見交換をさせていただきたいと思っています。今ご指摘のように、確かに建物が全て無くなってしまいます。ただ、検討していく間、何も利用しないわけにはいきませんので、駐車場なども考えております。中央公園で何かイベントがある時に駐車場として貸し出しをするなど、様々な形で検討が必要になると思います。まずは、利用方法が決まるまで、更地にしておいて、その後利用が決まったら、いろんな形で活用ができます。建物は、一度建てたら50年使えますので、そこはきちっとじっくりと話し合いをさせていただきたいと思います。駐車場となれば街灯も検討させていただきます。

市 民：市長も大変だと思いますが、去年、国保が7,400円で、今年は500円ほど値上がりしましたが、議会でも決められたということです。物価も去年のどこかで3.2%上がった中で、改定率が年金受給者27%です。年金者には春闘がありませんから70%ほどの人が年金受給の中で生活しています。このような大変厳しい状況の中で、来年は国保の値上げはないと思いますけれども、そうならないよう、お願いしたいと思っています。もう一点は、私たちが飲んでいる水に対して、全部湖北台の浄水場の地下水だけではなく

いと思います。流山の北千葉導水の水も含まれていると思いますので、割合等がわかれば教えていただきたいと思います。

市長：国保税につきましては、大変申し訳ないのですが、国保の運営をしていくためには、私自身も2年連続で値上げは避けたかったのですが、議会でご説明させていただきましたとおり、今年不足分が2億7千万円で、そのうちの1億分を値上げさせていただきました。加えて、値上げをすることによって、国から4,000万円いただけます。それで財調、いわゆる貯蓄の方からの繰り入れを1億3,000万とさせていただいて、国保運営を維持していくことになりました。これもご存知のように、今までは各市町村単位の国保だったのですけれども、今、都道府県単位の国民健康保険になりました。これによって基本的には都心部は値上げになりまして、農村部が値下げになるという形で、全県がバランスをとるために、県の方で調整をしています。その調整のうえで、我孫子や他市などに、いわゆる請求予定額が提示をされるという状況になってます。その状況の中で、我孫子市民の中の約8割は社会保険加入者になります。約2割弱が国民健康保険加入者になります。財政調整基金、いわゆる市の貯金を投入するということは、社会保険加入者が納めた税金も投入するということになります。そこについては、社会保険加入者は今の議会に諮らずに自動的にどんどん値上がりをしていきますから、その人たちに対しては、例年上がるときの補填がなくて、国民健康保険の人だけに補填し続けるというのは、理解が得られるかということを検討せざるを得ないと思っております。

また、各市がそれぞれ判断をしながら、2年連続値上げをするところもあれば、2年連続にはならないようにしているところもあり、我孫子の場合は13年間で値上げをしませんでした。そして、国民健康保険を維持するための貯金がとうとう底をついたという状況になりました。他市では、底をつく場合に定期的に2~3年ごとに値上げをしていました。まだ多少貯金に余裕があるところは、2年に一回の値上げをしているところです。我孫子も2、3年に一回値上げをしていれば、2年連続にならなかったかもしれません。ただ、今まで他市は2年に一回、3年に一回値上げしているけれども、我孫子市は、13年値上げをしなかったということだけは、理解をしていただきたいと思います。これから先、来年の年末ぐらいから年明けぐらいい来年の我孫子市の国民健康保険をどのぐらい

支払うかという請求予定が、県から来た段階で、また検討しなければなりません。その中で、他市も一番悩むところは、社会保険加入者が過半数であるということです。よって、社会保険加入者の理解ができる範囲内というのを模索する必要があると思っています。私自身も3年連続は避けたいというふうに今の段階では思っていますが、ここは来年いくら県の方から請求がくるかによって、また議会の意見もお聞きしたいと思います。今のところは、なるべく3年連続ならないように努力をしたいというふうにしか答えられません。申し訳ございません。

次に水の件ですが、今ご指摘のように、湖北台にあります井戸は、十数本あるかと思っていますけれど、その井戸水から湖北台の浄水場で活性炭を含めた浄水をして、北千葉導水の水とある程度混ぜながら水圧を保っています。震災の時の私の記憶では、大体約3割が北千葉の水で、地下水は約7割であり、水道水が届く末端の地区でも水圧が足りなくならないようにしています。13年前に福島原発事故があった時に、北千葉導水は一切、遮断しました。あの時、我孫子店、天王台の場合は、北千葉導水の水が100%ですので、我孫子、天王台は完全に断水いたしました。ただ、湖北から東側の地区は、この井戸水だけで供給をしていましたので、東側地区の皆様は、ちょっと水の出が悪くなったかというぐらいだったと思います。ただ、本流管に近い人は、ほとんど変わらないイメージであったと思います。そのレベルで済むという状況でした。

市民：湖北台の図書館については、私が生きてるうちに建設できるのかお聞きしたいです。建設するまでの間、時間が相当かかると思います。建設までの期間が、30年とまでは言わないですけど、10年ぐらいはかかるでしょうから、その間、図書館が全然ないというのは本当に不便です。仮の図書館は出来ないのでしょうか。それと図書館にも関係するのですが、我孫子は東西に長くて、東西への行き来がしづらいです。

しかし、我孫子地区の図書館と布佐地区の図書館がありますので、横を結ぶ手段としてもっとバスなどの運行を増やすなどは考えていないのでしょうか。資料では布佐ルート実証バスが運行されると書いてあります。これを天王台までではなく、我孫子駅ぐらまで伸ばせばもっと便利になると思いますが、この点についてもお聞きしたいので、お願いいたします。

市長：図書館については、先ほど説明したように、本来でしたら消防署と一緒に検討していただいて、消防署のそばに造ってしまえば、あと2年で完成だということでしたが、当時の皆さん方との意見交換会の中で、東側に行くのは困る。かといって西側に行かれても困るということで、結局は、今の場所から動かないほうが良いということになりました。その時にもお話をさせてもらって2期工事は、この1期工事が終わってからですという話で、遅れるのは了解した形で確認をさせてもらっていました。しかし、そのご意見を伺う席に利用者の皆様全員が来ていたとは思っていません。ただ様々な形で自治会の方からもお知らせをしていただいていると思っております。ここについては、2期工事の中で計画をさせていただき、その中で、何年で終わるかということは、皆さん方との合意が何年で出来るかということにつながることになります。当時も消防署の移転先について決まるのに、5年かかったというふうに理解していますので、この期間を短縮できるかどうかにかかっているということです。実際に移転となると場所を決めるのに非常に長い期間がかかるというのは、どこの場所でも同じです。この湖北台近隣センターもこの場所に決まるまで7年かかっていると私は認識しています。やっぱり場所を決めるには様々な意見が、いろんな形で出るだろうと思っています。それが決まらなければ、その先は進めませんので、先ほど言いましたようにそのぐらい先でしたら、子供の数が減れば、今の敷地に一番近いというのは、西小学校の敷地になります。当然学校敷地ですから、そこに他の施設を簡単に作れるわけではありません。教育機関施設の敷地に生涯学習施設が入っても良いわけではありません。そこを含めて皆さんと意見交換をさせていただければと思います。ここの期間については合意に達するまでどのくらいかかるのか、これが影響してくると思います。

あとは先ほど言いましたけれど、例えば、消防署の移転については、若草幼稚園の移転が前提にありまして、若草幼稚園も当時設計を途中で変更したりなどしまして、当初の計画よりも1年半伸びました。それも含めて約2年、結局は皆さん方と合意ができたあと約2年遅れました。

また、消防署の今回の入札でもありましたが、ご存知のように人件費と資機材の価格が結構上がっていますので、我孫子だけでなく、他市でもなかなか入札が思うようにいかない状況にあります。特に長期間に渡る工事になればなるほど、なかなか難しい状況

だと伺っています。物が無いという形では、13年前も同じで、被災地が最優先で、人材確保や物資が福島の方が優先となりましたので、なかなか厳しい状況だと聞いておりました。ある程度工事をする場合の人の手配、資機材の値上がりを見直してあげないと、手を挙げる業者がいなくて入札不調になります。こういったことは、一番避けたいということです。何年先にできるかについて、例えば先ほども国保の値上げもありました。けれど、急いで答えを出して、例えば1億円2億円をかけて、5年後に取り壊すことになってしまうよりも、よく検討をした方が良いと思っています。お金については、私が直接国や県に出向き、話をしてきます。職員は、どのような補助金があるのかなど、情報収集を行います。該当する課だけではなく、他課の補助金も利用できないかなども検討していきます。様々な形で、情報収集を行ってまいります。

湖北台図書館をどうするかについては、西小学校の建物は、本の荷重に耐えられないので、西小学校の空き教室では厳しいという結果でしたけれども、では、東小学校はどうか。それも含めて、もう少し教育委員会と協議をさせていただきます。今の段階で仮のものが作れるかどうかというのは、お答えできません。お時間をいただきたいと思います。少なくとも、西小学校の空き部屋は危険であることから、利用できないということになりました。

バスについては先ほど説明したように、成田線の増発がなかなか現実的には難しいです。これも私が市長に就任した時は、成田線が8駅で、天王台駅1駅と同じ乗降客数がありました。2万3千人ぐらいだったと思います。それが、大和根有料橋が無料になりましたので、そのまま車で有料道路へ流れるようになり、天王台駅の周辺駐車場は空きが出ました。それでも天王台は2万人を超える乗降客がいるとのこと。ただ、成田線は8駅合わせても、今2万人を切るような状況でJRと増線の交渉をしても、民間企業だから株主総会で説明できる数字が必要であると、かなり厳しいお話をいただきます。10年以上交渉していく中で、これは乗降客が増えない限りは、JRとの話は進まないとなれば、成田線を補完するバスを作ろうという話をしていたところでした。ただ残念ながら、コロナの3年間で成田線だけではなく、鉄道、バスに乗らなくなりました。外出しなくなって余計に利用客が減り、今もJRから話を聞くと、乗降客数は、まだ8割ぐらいしか戻っていないと聞いています。3月のダイヤ改正では、何とか成田線は現状維持

で確保することができました。そのうえで本数は増えてませんが、品川に向かうなど行き先を切り替えていただけるところまで来ましたが、残念ながら増発には繋がっていません。それを含めて、コロナの期間中に、布佐から天王台、我孫子までの路線バスを計画したのですが、コロナの期間にそれをテスト運行してしまうと、乗客が少なくて不必要という結論が出てきてしまいそうな状況でしたので、この期間は、テスト運行は実施しませんでした。

やっと、コロナが収まり、いざテスト運行を行おうとしましたら、布佐から国道 356 号を通過して天王台駅北口に行く路線バスが廃止されることになりました。それと平和台ですが、布佐の南口から新木の南口を通るバス、この 2 路線を廃止すると、バス会社が出てきました。平和台につきましては、かなり不便になりますので、実証運行バスを置き換えることになりました。運行には半年間で 1,000 万円の費用がかかります。今、あびバスが市内いたるところで走っておりますが、コミュニティバスであり、いわゆる路線バスとしては赤字であり、民間が運行してくれないから、市が補助を出して運営しているバスです。一番赤字であるのは、湖北駅から新木駅を結ぶルートが、年間 1,000 万を補助することによって維持しています。これは赤字部分の補填です。他の路線を走っている台田ルートや並木ルート、これも赤字です。これで 500 万の補填をしています。黒字だったら、民間が行います。そうではないので、コミュニティバスとして運営を続けています。これにほぼ近い形で今の平和台と布佐線を維持しようと考えております。実証的に運行しながら、実際には休日平日という時間帯があるのかというテストをしていこうと思っております。

まず、今年の秋から半年間、実証運行いたします。阪東バスは 8 月には取りやめると言ってますので、9 月からの予定としています。様々な形で補助金を出してでもやるということも含めながら、どういう形で運行していくか検討していきたいと考えております。例えば、今ご指摘のように我孫子市は東西に長いです。国道 356 号を通るこの布佐線については、どのくらいの乗降客がいるかという現実的な数字、これは阪東バスさんからいただいておりますが、1 便当たり 10 人乗っていません。1 桁です。この現実から見て、だから廃止をしたいというのは、経営者としては非常に理解ができるのですが、市長としては、理解するわけにいきませんので、そこについてはどういう形であれ、市の

税金を投入してでも、市民の足をどう確保するかというのを検討し続ける必要があるだろうと考えています。ですから、この廃止となる路線を維持することが、優先課題になってしまったことをご理解ください。これをご指摘のように、布佐から我孫子まで行きながら各公共施設を結べるような余裕が出て、そして、利用客の方々が確かに乗ってくれるという確認ができるかどうかというのを、まずこの半年間で見たいと思います。

その場合、皆さんご存知のように、あびバスは、150 円均一になってます。バス停の一つ先で降りても、最終まで乗っても同一料金ですが、これも今阪東バスが値上げをしています。当時は阪東バスの最低料金 150 円で設定をしていました。今、確か阪東バスの最低料金は、170 円だったと思います。そこで、この布佐ルートと平和台ルートを阪東バスと同じ料金体制に変更させていただこうと考えております。それでも、多分大きな赤字になるだろうと認識をしているところです。まず半年間、実証運行で状況を見て、それから本格的に検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

市民：家の近くに、防災無線の放送塔があります。17 時 30 分頃に放送が流れるのですが、3755 番地にあった鉄塔が撤去されたため、全然聞こえなくなってしまいました。代わりにどこか近くに建つ予定はありますか。

それから、2023 年の 7 月に、我孫子市役所の公園緑地課に電話し、樹木の剪定を依頼したら、今年の 2 月 19 日に伐採に来てくれました。それと、緑地公園の下の方ですが、土の上に雑草がだいぶ茂ってしまい、4、5 年前に公園緑地課に電話して剪定してもらったら、業者が来て、その雑草は自分で処理してくださいと言われたのですが、やってくれました。だから今回も電話をしようと思ったのですが、ふれあい懇談会がありますので、質問してみようと思いました。よろしくお願いします。

市民安全課長：根古屋の行政防災無線ですが、令和 4 年度に撤去させていただきました。

ここは、借地に設置していたものですから、所有者様からの申し出により、撤去せざるを得なくなりました。次は、どこに設置するかについては、今年度予定しておりまして、場所は、市営住宅の敷地内に建てさせていただくことになっています。時期につきましては、夏ぐらいには建てる予定です。1 年ほど防災無線がなかった状態で大変申し訳な

かったのですが、今粛々と進めていますので、しばらくお待ちください。

都市部長：公園の管理の方ですが、今日、担当が来ておりますので、懇談会が終わりましたら、状況と公園の場所を担当に話していただきたいと思います。状況に応じて対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

市民：前々回、1丁目のバス停のところの横断歩道に合わせて側道を下げてほしいという意見を出しましたけれども、早速取り組んで下げていただきました。それから4号公園の照明につきましても、すぐ対応していただきました。ありがとうございました。

今日は3点あります。一つは、基本計画の目標の1です。これに関連してですが、能登半島の地震を見て、家の倒壊、水道管の破裂、それから火災について、非常に驚きました。能登半島の地震があった地域は、震度5以上の地震が3%以下と予想されていたところだそうですから、3%以下でもあれだけの地震が起きたわけで、いつ大きい地震が起こるかわからないことと、我孫子もその範囲に入るのではないかと心配しています。

そこで、家屋の倒壊ですが、阪神淡路大震災で住宅の基準が厳しくなる以前に建っている住宅も湖北台地域にはかなりあるのではないかと思いますので、どの程度あるのか。教えていただきたいことと、その対策はどうか。二つ目は、ガス管の破裂は、大丈夫でしょうか。三つ目は水道です。能登半島も水道の耐震化が遅れていたと聞いております。それで調べたところ、石川県は耐震適用率が、36.2%。私が知ってる範囲では、我孫子市の場合は44.8%。千葉県全体では59.8%で、我孫子は千葉県に比べてもかなり落ち込んでおります。そういう意味で、水道の耐震化の問題について聞きたいと思っております。

次は、4号公園の松が枯れて数年で10数本切り倒されています。その後に植林はしているのか、お聞きしたいと思います。次は、前回も前々回も言ったのですが、手賀沼の遊歩道の安全案内があるのですが、ものすごく汚いです。調べたら、案内看板はいくつかあります。もうちょっと、公園課の方は工夫をして、綺麗にして欲しいと思います。

それから、五本松公園のところの運動公園ですが、駐車場の脇に空き地があります。ニュースで、ある自治体がスケートボードを楽しめる公園を作ったというのを見まして、青少年が楽しめる、そういう公園を検討する必要があるのではないかと思います。

三つ目は、さっき図書館の話がありましたけど、私がゴミ捨てに行くと、まだ使える立派な辞書や事典が捨ててありました。資源ゴミで勿体ないなと思ったので、こういうのをリサイクルできるようにならないでしょうか。以前、私が住んでいた葛飾の図書館は、自由に持ち込めるリサイクルコーナーがありまして、そこに置いたところ、全て持ち帰ってくれました。我孫子もそういったことをもっと考えてみては、どうでしょうか。もったいないと思います。

都市部長：私の方からは耐震化率と公園についてお答えさせていただきます。まず我孫子市の住宅の耐震化率というのが今 92.4%となっております。それで先ほどお話があった能登半島地震被害が大きかった珠洲市と輪島市ですが、約 46%と約 51%ということで、家屋自体は石川の方が古いということと、我孫子市の場合は、今新しい建築もあるのですが耐震補強されているものは、一応この中にカウントされております。全国平均で 87%ぐらい耐震が行われている建築物となっております。また、木造住宅の耐震化の補助金ですが、診断と改修の補助金を出しています。対象になるのは、昭和 56 年以前に建てられた建築物のお住まいで、まだ耐震化などが図られていない場合は、ご相談でも建築住宅課の方で受けておりますので、よろしく願いいたします

それから公園のお話ですが、まず昨年、手賀沼の文学の広場の看板をご指摘いただいて、職員が現地を確認し、汚れは簡単に落ちるということでした。ただ、遊歩道の看板も汚くなっているものではなくて、壊れているものもかなりあるということで、職員が一通り廻りまして撤去したのですが、看板も公園緑地課が立てているものだけでなく、様々な団体が立てている看板が多々あります。市内には 223 の公園があつて、様々な課題もあり、それに対し、職員もいろいろ対応していて、なかなか手が回らないところもあります。教えていただいたものや気がついたところから行っていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。次に 4 号公園ですが、松枯れで何本か伐採していると思うのですが、担当職員の方から状況について説明させていただきます。

公園緑地課長：4 号公園の松枯れについてですが、令和 4 年前後から市内で松枯れとナラ枯れが発生しました。虫が伝染病を運んできて、枯らしてしまうという状況が流行って

おります。令和5年度はかなり市内でも被害を被ってしまいまして、市内で約80本枯れてしまいました。これは薬では治らないというものです。ですから、他にうつらないようにするため、伐採という形をとらせていただきました。4号公園ですと、私の記憶では10本弱切らせていただいたところですが、今後植樹をする前に、4号公園もそうですけれども、既に老木となってしまっている松の所在とどこまで間引きをするのか、頭止めをするのか、既存の老木の方を管理することを優先させていただいています。これが整ってから未来の新しい苗をどうするか検討していきますので、お時間をいただければと思います。

市長：五本松運動広場については、先ほど説明したように真ん中にサッカー場とその周辺に400mトラックと100m走ができる全天候型の陸上競技場を造る予定です。そして、夜間照明とクラブハウスも造りますので、そうすると今、ご指摘の空き地というものはクラブハウスの場所と、あと予備の駐車場になります。今も五本松運動広場は、特に消防操法大会では、駐車場はいっぱいになります。保育園・幼稚園の運動会でも使うことがあり、駐車場が足りなくなります。また、少年サッカー大会をあの場所で行うとなると、さらに駐車場が必要になるだろうと予測をしています。今のご指摘の広場は、完全に予備の駐車場とクラブハウスとなり、いわゆる更衣室、トイレそれとシャワー室、ロッカー室が用意されることになります。また、その競技の備品などを置く場所も予定しています。また、お墓に近い方の場所は、子ども達や選手達が、準備運動できる場所にしようと、その方向で協議を行っています。

使用している間に、様々なご意見をいただくと、お墓に近い奥の方も予備の駐車場になる可能性もあると思われれます。一度、見に来ていただくと私の言っていることがわかると思いますので、ご理解いただきたいと思います。

それと、水道の耐震化率ですが、本日、水道局職員は出席しておりませんので、前職の職員がわかる範囲でお答えいたします。

市職員：前水道局職員です。水道の耐震化ですが、私の記憶では今の4割ぐらいが市の持ち分です。当然、今も予算をつけて進めているところですが、我孫子の特色としてまし

ては、湖北台でいいますと、住宅公団、もしくは民間が街を開発しているところが多いです。

当然、それは工業ベースの水道の材質ではなくて、民間ベースで譲り受けた形が多いものですから、最初の段階のものが地震にむいていない材質で維持している状態があります。それを今予算付けしまして、何とかしているところです。ただおっしゃる通り、決して水道局の職員がそれに満足しているわけではありませんので、鋭意進めているところでございます。

市 民：千葉県より 15%低いわけです。それはどうなのでしょう。

市職員：感覚的ですが、千葉県との相対的な部分で言いますと、我孫子では新しい街が比較的多いものですので、そもそも耐震化の適合というのは、100%耐震ではないけれども、旧 1 世代前までは認めますというような考えが入っています。我孫子は、先ほど私が説明した通り、位置づけよりさらに古いものですから、その中間層の材質を持つてるところが足りないという現状ですが、今、湖北ですとほぼ進んでいると思います。例えば、つくし野地区でしたり、南新木地区あたりでは、もう既に耐震適合率になっていると思いますので、今伸ばしていくべきところはどちらかというところと小規模でかなり限定したところを、これから行っていく予定であると思います。

市 長：県水、いわゆる県の水道は、我孫子市の水道と比べるとかなり料金が高いです。我孫子市も水道料金を値上げすれば、水道の耐震化率もあがります。今の状況の水道料金でいきますと、その中で出せる工事費でやりくりしています。そこも含めて、今、市内のあちらこちらで、水道管、ガス管はニチガスですが、耐震化の高い管に交換をしています。東日本大震災の後では、管が外れたり、ガス漏れなどありましたが、そういうところを中心に水道局で地震に強いものに取り替えるという工事をしています。今、前担当者が言いましたとおり、古い管から行っているところで、少しずつ進めているということをご理解いただきたいと思います。工事を急速に行おうとする場合は、財源が必要ですので、水道料金を払ってくださる方々のご負担となります。こういったことを踏

まえて皆さんにご理解いただきたいと思います。

市長：資源ゴミについてですが、これも皆さんご存知のように各自治会にて、いわゆる資源ゴミを出せば出すほど、自治会にこれまで支援金を出していました。今回、その支援金について、上限を設けさせていただくことになりました。今回の見直しで最大で減少するところが、50万円の予定だったのが、激変緩和を行ったところ、それでも年間40万円、市からの支援金が減るところもあります。ただ、ほとんどのところは、数万円の減少や変わらないところもありました。これによって、先ほど言ったように、別に出さなくてもいい物を出すような人が減ってくれればと思っております。先ほどの使えるものということについては、これから担当と一緒に相談させていただき、どこに出せばいいのか。これを逆に職員が回収してしまうと、その人件費は誰がだすのか。

ここについては、しっかりと線引きをさせていただこうと思っております。市内では独居の高齢者でゴミステーションにもゴミが出せない方で、条件が適用範囲内であれば、家の前までゴミを収集する、ふれあい収集を行っています。これについては、我孫子市の人口が減っているにもかかわらず、申し込みのケースが増えています。原因は、高齢化が進んでいることであり、この「ふれあい収集」に使う車両がこれまで1台であったものが、今2台用意しなくてはならなくなりました。当然、これは各家庭を1軒ずつ回ることになるので、非常に人件費がかかるという結果になります。我孫子市としては、リサイクルを推進していく考えでおりますので、この課題解決にはもうちょっとお時間をいただければと思っております。ご指摘ありがとうございます。

市民：あびバスについては、広報などで宣伝しているのでしょうか。私は、湖北台に住んでいますが、車を処分しましたので、あびバスのルートなど教えていただきたいと思います。

市長：先ほど説明したように路線バスがないところを、あびバスは走っています。

例えば、この近くでいいますと湖北駅の北口から新木駅の南口へ新木野の方を中心に走っています。当然そこは路線バスが通っていない地域です。布施ルート、根戸ルートも

路線バスがありません。路線バスがないところに住んでいる方々が駅に行くためや病院に行くための足の確保となっています。あびバスがスタートした理由としては、高齢者の外出支援から始まったということです。

市 民：街路樹があるのですが、銀杏の木も伸びていて、剪定の方法など上手くできないかと思っています。あと、けやきなどは剪定できないと思います。また、電線にかかっているなど、木がかわいそうだと思いますので、電線を地下にひくことは出来ないかと思っています。大変お金がかかることを言いましたが、見た目も大事ですが、樹木も大事ですので、検討していただければと思います。

建設部長：市では街路樹の剪定については、高さや剪定の方法など決めて行っております。これは3年に一度見直しを行っております。ご理解いただければと思います。けやきにつきましては、かなり大きくなっていて、すばらしい景観が出来ていると思っております。ただ、確かにご意見をいただいたとおり、電線を地下に引くのは良いとは思いますが、今、市役所で検討している我孫子駅から柴崎神社をとおり、手賀沼公園へ続く公園坂通りがあるのですが、地中化にしますと約11億円かかります。確かに地中化にしますと地震の際も電柱が倒れることはなく安全ですが、非常にお金がかかりますので、現実的ではないと考えております。今は、電気を供給する電線に支障がある場所は剪定を行っていくこととなりますので、ご理解いただきたいと思っております。

市 民：能登半島の地震の際、全国から物資や人を送ったりしていましたが、我孫子市では、どういった救援を行ったのか、教えていただきたいと思っております。

市 長：13年前、我孫子市も被災地になりましたので、いろんなところから支援をいただきました。そして、我孫子市が少し落ちついた時点で、福島への支援にまわりました。当然、今回も我孫子の場合は、千葉県とチームを組んで行きました。千葉県が主体となって、千葉県が10名、各市町村から10名の体制で1週間支援に行きました。

千葉県は珠洲市担当となり、我孫子市職員は1週間ごとに交代して行ってきました。

物資、義援金の方は、社会福祉協議会が窓口となっていますので、皆さんもお覚えておいていただきたいと思います。支援にいった職員に聞きましたところ、珠洲市は人口1万人ほどですので、職員は200人ぐらいしかおりません。心配して電話をかけてくる人がいますけれど、その対応に追われてしまって、支援が進まないという状況であったとのこと。知事に聞きましたところ、珠洲市は受援体制が出来ていなかったようです。千葉県は、被災を経験していましたから、中心となって支援を行ってきたとのことでした。ちなみに、現在のところ、我孫子では活断層は見つかっていません。我孫子の電力中央研究所は、地震や火力発電、原子力発電などの研究を行っています。また、マンションなどの耐震、免振構造実験の道具を持っている、日本でも数少ない施設であります。電力中央研究所では、公開講座も行っており、私も伺った際には、活断層が我孫子市にあるのか、必ず確認していますが、今のところは、我孫子直下型の地震はないというふうに聞いております。一番心配なのは、茨城南部沖地震だと聞いていて、大型の地震が来る可能性があるかと聞いております。それと、首都直下地震ですが、当時の関東大震災でも我孫子は、そんなに被害は出なかったと聞いております。地震があった際は、あわてて外に出ないようにしてください。野田でも福島地震の際に、すぐ外にでた方が、落ちてきた屋根瓦が頭にあたり、亡くなったとのこと。

我孫子では、液状化にはなりましたが、亡くなった方はおりませんでした。最近千葉県の南側でよく地震が起きますが、我孫子は津波の心配はありません。津波が利根川を遡っても、せいぜい佐原までです。我孫子までは遡らないとのこと。湖北台は、台地ですので、家や各具などが倒れないように工夫をしておけば、あわてる必要はないと考えております。ただ、震災による火事などは十分注意しなければなりません。断水しても我孫子市は、手賀沼と利根川に挟まれておりますので、水源は確保されています。福島の際は、海水が小学校のプールまで到達し、車などがプールに入ってしまったも、それを飲料水にかえる装置を自衛隊は持っていました。我孫子市は、その淡水版の浄水器を持っています。そして給水車も2台ありますから、それを含めながら活用していく考えです。13年前布佐の都地区は、我孫子で一番大きな被災地になりました。都地区だけで我孫子の被災地の8割に相当しました。湖北台、青山台、柴崎台、つくし野も被害にあいましたけれど、一番ひどかった都地区では、都地区の自治会の役員も含めて被災

しまして、身動きがとれませんでした。そういった中で、被災しなかった周辺の自治会の役員さんや自治会の皆さんが、真っ先に助けに入ってくれました。市役所の職員が行った時には、共助が既に行われていました。布佐には伝統的な竹内神社のお祭りがあり、それも含めて地域で連携がとれていたからこそだと思います。湖北台地区の皆様は、まちづくり協議会、地区社協、自治会連合会と連携がとれている地域ですから、平時からお付き合いを大切にして連携をとっていくことが、公助の前の共助につながり、それが一番大切であると思っていますので、これからも共助という言葉を忘れずに、生活していただければと思います。